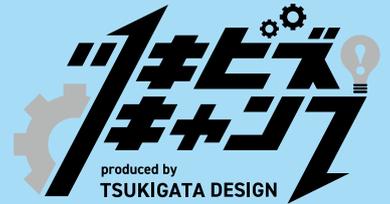


ツキビズキャンプ

3年間の軌跡

～まちから生まれる、新しい挑戦～



ツキビズ キャンプとは

「ツキビズキャンプ」という取り組みを、2024年2月から行っているのをご存知でしょうか。ツキビズキャンプは、まちづくり団体「つきがたdesign」が主体となり、月形町での挑戦に関心を持つ方を対象に、事業づくりに必要な考え方やアイデア整理の方法を学びながら、講師や指導者（メンター）の助言を受けて事業案を磨いていく実践型プログラムです。



令和7年12月13日（土）には、第3回目となる「ツキビズキャンプ 3rd」の最終発表会が開催され、参加者それぞれが、自身の想いや事業プランを発表しました。

これまで第1回から延べ37名が参加し、そのうち10名以上が町内外で実際に行動に移しています。ツキビズキャンプをきっかけに、新しい挑戦が次々と生まれています。

これまでのツキビズキャンプの概要

ツキビズキャンプは、2024年2月に第1回がスタートし、2025年2月、2025年10月と、これまでに3回実施されてきました。

毎回およそ1カ月半にわたって、起業や事業づくりに関する講座を受けながら、月形町の魅力や課題を見つめ直し、そこから新しいアイデアを形にしていくプログラムが行われています。

参加者は町内の方だけでなく、月形町出身で町との関わりを続けたい方、北海道大学の学生、子育て中の方、海外出身の方など、実にさまざまです。毎回2～3名の町内参加者が加わり、赤ちゃんを抱っこしながら参加するお母さんや、遠くから月形町に関心を持って訪れる方もいます。世代や立場、国籍を超えた多様な人たちが同じ場で学び合うのも、このプログラムの大きな特徴です。

町内外の参加者ととともに月形町の良さや課題について語り合う時間は、参加者自身が月形町への理解や愛着を深める時間にもなっています。プログラム終了後も、イベントに参加したり、事業の準備や実証実験で町を訪れたり、月形町との関わりを持ち続ける人が多く、ツキビズキャンプは「関係人口」を生み出すきっかけにもなっています。



プログラムはどんなことやってるの？

ツキビズキャンプは、月形町での合宿やフィールドワークを通して現場を知り、専門家による起業や事業づくりの講義を受けながら、自分のアイデアを少しずつ具体化していきます。さらに、各分野の専門家から個別のフィードバックを受け、自分の考えを客観的に見直しながらかき上げていくことができます。

修了後もフォローアップが行われ、発表して終わりではなく、実際に事業として動き出すところまで伴走する仕組みになっています。

プログラムは北海道大学と連携して実施されており、起業の専門家やコミュニティづくりの専門家とともに、月形町ならではの事業づくりを支えています。



ツキビズキャンプは「学びの場」であると同時に、「実際の挑戦が始まる場所」になっています。



ツキビズキャンプがこれから目指す姿

ツキビズキャンプは、「まちに挑戦者を増やす」ための取り組みの一つです。

すぐに大きな成果が見えるものではありませんが、一つ一つの挑戦を積み重ねることで、まちの未来は少しずつ、確実に明るくなっていきます。

「何かやってみたい」「月形町と関わってみたい」そんな思いを持つ方の参加をお待ちしています。

ツキビズキャンプは、あなたの一步を、まち全体で応援する場所です。



参加者はいま

ツキビズキャンプをきっかけに、多くの参加者が実際の行動を始めています。月形町に関わっている参加者の一部をご紹介します。



西岡さん(大学生)

一般社団法人を立ち上げ、現在は月形町でゲストハウスの開設を準備中。



関さん

道の駅で販売するお菓子を開発。来年度から月形町での事業スタートを目指して準備中。



南さん

町内の福祉施設でダンス講師として活動を開始。ツキビズキャンプをきっかけに札幌で事業所を開設。



佐藤さん

月形町でカフェを開設。現在は週1回営業しながら地域に根ざした運営を行っています。



齋藤さん

経産牛(母牛)の肉を活用した商品化の実証実験を実施。今年の商品化・販売を目指す。



阿部さん(大学生)

海外からの留学生を町に招き、交流を生むイベントを企画・実施。